

山梨県南アルプス市
平成22年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2012.3

南アルプス市教育委員会

山梨県南アルプス市
平成22年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2012. 3

南アルプス市教育委員会

例　　言

1. 本書は山梨県南アルプス市において平成 22 年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。
3. 調査は斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一が担当した。
4. 本書の執筆は第Ⅰ章および第Ⅱ章 3、4、7、9 は斎藤、第Ⅱ章 1、2、5、6、8 は保阪が担当し、編集は斎藤、保阪が行った。
5. 整理作業には、加藤由利子、小林素子、桜井理恵、高畠美和、穂坂美佐子が参加した。
6. 本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。
7. 試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意したい。(敬称略・五十音順)

帝京大学山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

凡　例

1. 遺構図の縮尺はそれぞれ図に明記した。遺物実測図の縮尺は以下の通りである。

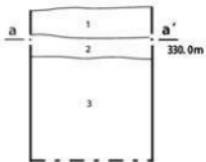
土器、キセル・・・・・・1/3

木製品・・・・・・・・1/3、1/4

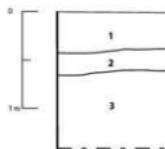
2. トレンチ配置図および遺構図中で使用したスクリーントーンはそれぞれ図版中に凡例を示したが、原則は以下の通りである。



3. 遺構の断面図、基本層序図における「330.0m」等の数値は標高を表す。また試掘調査時レベルを使用せず、地表から簡易的に測量した断面図には縦のスケールのみ表記した。



標高あり



標高なし

目 次

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 平成22年度試掘調査概要	1
1. 南アルプス市概要	1
2. 調査概要	1
3. 今後の課題と展望	3
第Ⅱ章 平成22年度遺跡試掘調査概要	5
1. 西川遺跡	5
2. 百々・上八田遺跡（上八田53-1他）	7
3. 百々・上八田遺跡（上八田1339）	13
4. 百々・上八田遺跡（上八田1615-1）	16
5. 飯野4086、曲輪田197他	18
6. 批杷B遺跡	22
7. 赤面A遺跡、赤面B遺跡	24
8. 宮沢152	28
9. 坂ノ上姥神遺跡第4地点、百々・上八田遺跡（徳永1715他、上八田1619-1他）	35

第Ⅰ章 平成22年度試掘調査概要

1. 南アルプス市概要

平成15年4月1日に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の4町2村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06km²、山梨県の面積の約5.9%を占めている。市西部は北岳(3,193m)をはじめ、間ノ岳(3,189m)、仙丈ヶ岳(3,033m)、鳳凰三山など3,000m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約73%を占めている。一方市東部は南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御勅使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

2. 調査概要

平成22年度の試掘調査は総数35件を数える(第1・2表)。昨年度の30件と比べると微増しているが、平成17年度と比較すれば少ない。これは蓄積したデータを活用し、より効率的な試掘調査を選択した結果でもあるが、平成21年度の57件同様、本年度が61件と開発行為自体が低調であったことにも起因している(第3表、グラフ1)。

調査原因を公共事業、民間事業別で見ると、公共事業に対する試掘の割合は、平成15～17年度までは約11～15%であったが、平成18年度を境に増加に転じ、平成20・21年度には30～34%まで増加、しかし本年度は一転して20%と減少傾向となった。平成21年度までは災害復旧などの公共

調査原因	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	合計	
公共事業	道路	3	3	3	7	4	4	5	2	31
	学校	2	0	1	2	1	1	4	0	11
	公共施設	2	1	4	0	2	3	0	5	17
	範囲確認調査	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	小計	7	4	8	9	7	10	9	7	61
	公共事業の割合(%)	14.9	11.8	14.8	23.7	29.2	34.5	30.0	20.0	21.0
民間事業	個人住宅	12	2	3	5	3	2	5	9	41
	個人住宅兼店舗	2	1	2	0	0	1	0	0	6
	集合住宅	1	4	5	5	7	5	5	6	38
	工場	0	2	4	3	1	2	1	1	14
	店舗	8	3	3	1	1	0	3	0	19
	宅地造成・分譲	13	13	16	13	5	3	5	8	76
	倉庫	1	2	1	0	0	0	0	0	4
	駐車場	1	0	2	0	0	0	0	0	3
	鉄塔	1	0	7	0	0	2	1	1	12
	その他	1	3	3	2	0	4	1	3	17
小計		40	30	46	29	17	19	21	28	230
合計		47	34	54	38	24	29	30	35	291

第1表 平成15～22年度試掘調査原因一覧

第2表 平成22年度試掘調査一覧

No.	調査名・試掘名	調査地	対象面積 (m ²)	調査実積 (m)	トレンチ数	透構	遺物	調査期間	調査原因
1	西光寺跡	鶴見90-1他	1,790	26.16	1なし	土壁		2010年4月26日	集合住宅
2	西川遺跡	美木24-26他	368	8.8	1	竪穴式住構、土坑	骨生-古式土器類	2010年5月26日	個人住宅
3	新田A遺跡	平岡1718-1	77	1.44	1なし	石牆		2010年6月1日	個人住宅
4	鶴中森710-2	鶴中森710-2	326.87	7.5	1なし	なし		2010年6月2日	社会体験施設(休憩施設)
5	市ヶ久保遺跡	鶴南1685-2	359	7.38	2なし	なし		2010年6月3日	宅地造成(分譲住宅)
6	百々・上八田遺跡	上八田1539-7	453.71	1.6	1なし	なし		2010年6月9日	個人住宅
7	八幡原1遺跡	鶴中森218	662	6.8	2なし	なし		2010年6月10日	宅地造成(分譲住宅)
8	八幡原1遺跡	鶴中森289-2	406.34	10.41	2なし	なし		2010年6月11日	個人住宅
9	八丁東2遺跡・加賀美条塗遺跡	鶴田192-1	1113	14.86	2なし	なし		2010年6月16日	集合住宅
10	百々・上八田遺跡	上八田53-1他	58,073.97	299.3	8住居址、竪穴式住構、土坑、土阱器			2010年7月21～8月4日	工場搬出
11	鶴崎遺跡	鶴崎146-1他	2,656	15.66	2なし	なし		2010年8月3日	宅地造成(分譲住宅)
12	加賀美条塗遺跡	鶴田1261-1他	16	6.8	1なし	なし		2010年8月11日	個人住宅
13	新小学校跡	十五所1261-4他	304.67	4.25	2なし	なし		2010年8月11日	個人住宅
14	新田2遺跡	平岡1716	257	4	1なし	なし		2010年8月18日	被覆電線移設使用
15	百々・上八田遺跡	上八田1339	1,025.49	2.32	1	竪穴式住構、溝の遺構	牙リ貝、かわらけ	2010年8月24～25日	個人住宅
16	百々・上八田遺跡	上八田1615-1	407	3.22	1	竪穴式住構、土坑	土阱器	2010年9月13日	個人住宅
17	西光寺跡	鶴見91-3他	156	4.55	1なし	なし		2010年9月17日	集合住宅
18	鶴野4096-赤堀田197他	鶴野4096-赤堀田197他	10,238	274.33	27住居址、竪穴式住構、土坑、土阱器			2010年10月18日～12月23日	白鳥2号
19	西野135-3	西野135-3	1,198.02	14.76	2なし	なし		2010年10月19日	集合住宅
20	新野B遺跡	小堀原1849	509.48	2.16	1住居址	なし		2010年10月19日	個人住宅
21	江原1581	江原1581	44.15	6.66	1	土坑		2010年10月20日	新敷石水槽
22	赤面A遺跡・赤面B遺跡	河原771-1他	4,090	77.61	12	竪穴式住構、土坑	土阱器	2010年10月20日～12月3日	白鳥相模
23	吉田原422	吉田原422	44.15	9.9	1なし	なし		2010年11月21日	新敷石水槽
24	小堀原1081-1他	小堀原1081-1他	1,346.81	7.14	1なし	なし		2010年12月2日	宅地造成(分譲住宅)
25	鶴見152	鶴見152	1,158	41.65	13なし	木製品		2010年11月18、19日、12月7～9日	福地施設
26	加賀美365他	加賀美365他	4,362.65	21	2なし	なし		2010年12月14日	宅地造成(分譲住宅)
27	鶴見152-1他	鶴見152-1他	3,934	33.52	4なし	なし		2010年12月15日	宅地造成(分譲住宅)
28	中野28	中野28	81.18	5.25	1なし	なし		2010年12月29日	済美園
29	百々565-1他	百々565-1他	1,271.61	6.84	1なし	なし		2010年12月24日	集合住宅
30	鶴原377-3他	鶴原377-3他	3236.87	237.3	3なし	なし		2011年1月12日	福地施設
31	江原210他	江原210他	1,375.20	9.12	2なし	なし		2011年1月27日	集合住宅
32	鶴原1388-1他	鶴原1388-1他	2,529	16.9	2なし	なし		2011年2月16日	宅地造成(分譲住宅)
33	鶴ノ上岸神社遺跡第4地点、百々・上八田遺跡	鶴永1711他、上八田2013-1他	3,894	132.88	11住居址、竪穴式住構、土坑、土阱器			2011年2月21日～25日	私立小学校グランデ
34	鶴河遺跡	鶴河321	465	8.04	2なし	なし		2011年3月1日	個人住宅
35	上今瀬1209-1他	上今瀬1209-1他	2,678.69	33.99	4なし	なし		2011年3月7日	宅地造成(分譲住宅)

事業による緊急経済対策が図られ、その結果比率が高まったと考えられるが、本年度は景気刺激策の反動や合併特例債の期限がせまり市財政状況が逼迫する中、公共事業を減少せざるをえない状況を示している。

開発行為における用途別で見ると、宅地造成・分譲が8件、集合住宅が6件を数え、例年どおり住宅にかかる調査原因の件数が多い。この結果を地区別開発数と重ねて見てみると、若草地区では開発件

数の中で建売分譲、宅地分譲、集合住宅の占める比率が約 67 パーセントと他地区より高く、市内において住宅化が最も進んでいる地域であり、その結果試掘・確認調査もその地域に集中する傾向にある。

3. 今後の課題と展望

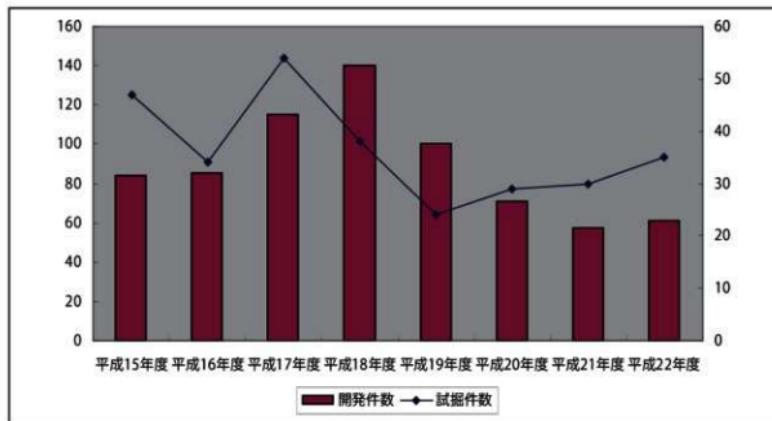
平成 22 年度（2010）は、欧州金融危機など新たな問題が顕在化する中で、2007 年から続く世界金融危機直後から比べると日本経済がやや持ち直し、それを反映して開発件数自体は 61 件と昨年度の 57 件に比べ微増した。試掘件数もそれに比例して微増している。

本年度で特徴的なのは、周知の埋蔵文化財包蔵地外新たに遺跡が発見された点である。新規道路建設事業である白根 2 号線は、御動使川扇状地扇尖部を南北に縱断する計画であり、試掘調査の結果、道路予定地のほぼ全域に砂礫が堆積し遺跡の痕跡が認められない状況であるのに対し、一部分のみ安定した暗黄褐色土シルト層とともに平安時代の住居跡が検出された。一方で釜無川の低湿地に計画された福祉施設建設に伴う試掘調査でも木製品などの遺物が出土し、新たな遺跡の広がりが示唆された。

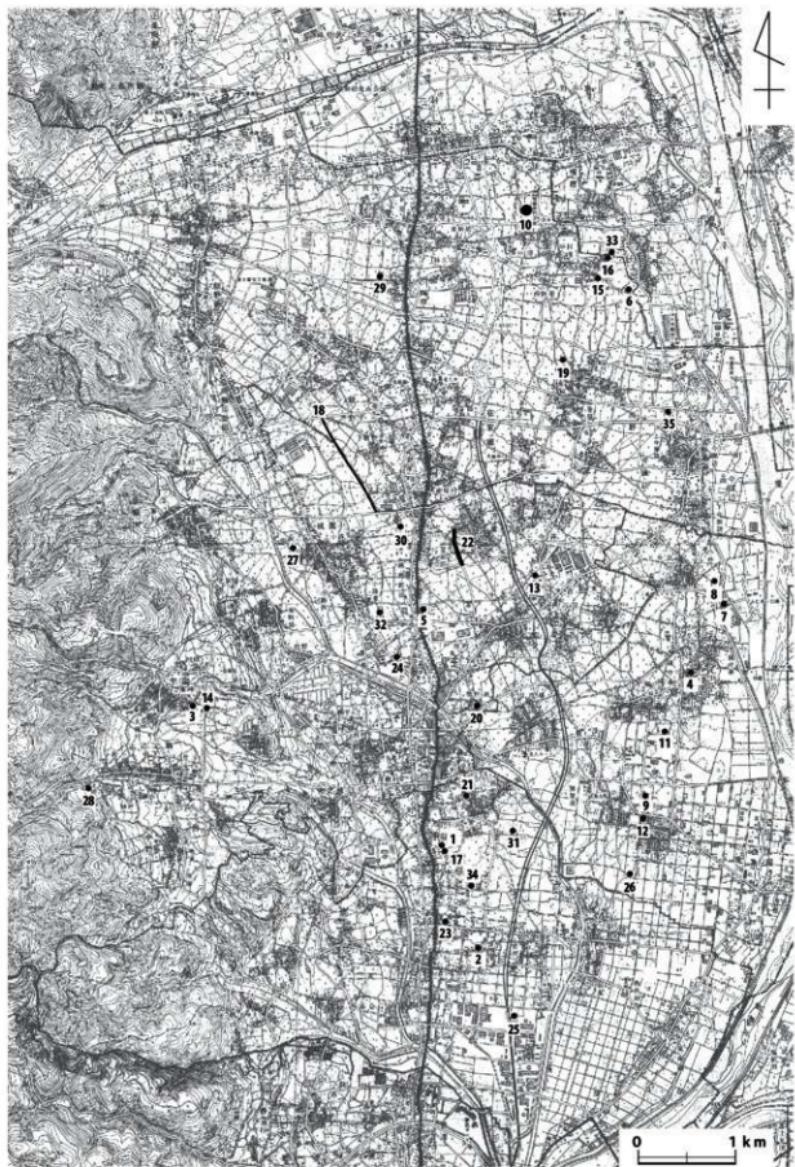
以上の結果から、市内では地表からの遺跡の発見が困難な地域が多く、未だ未発見の遺跡が多数埋没している可能性が改めて示されたといえる。今後も工事、開発が計画された場合、綿密な試掘・確認調査が必要であり、周知の埋蔵文化財包蔵地の把握に努めることが、埋蔵文化財保護の土台であり出発点であろう。

年度	開発件数	試掘件数
平成 15 年度	84	47
平成 16 年度	85	34
平成 17 年度	115	54
平成 18 年度	140	38
平成 19 年度	100	24
平成 20 年度	71	29
平成 21 年度	57	30
平成 22 年度	61	35
合計	713	291

第 3 表 年度別開発行為件数および試掘件数



グラフ 1 年度別開発行為件数および試掘件数



第1図 試掘調査地点位置図 (1/50,000)

第Ⅱ章 平成 22 年度遺跡試掘調査概要

1. 西川遺跡

調査地 清水 24、26 他
調査原因 甲西児童館
調査期間 平成 22 年 5 月 26 日
対象／調査面積 568 m² / 8.8 m²
調査概要

西川遺跡は南アルプス市南部、甲西地区のほぼ中央にあり、標高約 250 m を測る。周囲は水田地帯で、当方でかねてより「田方」と呼ばれる地域にあたるが、網の目状に流下する小河川によって造られた微高地に立地し、西には古墳出現期の特徴的な遺跡

ある住吉遺跡、東には清水遺跡が隣接するなど、同じく微高地上に遺跡が分布しており数々の調査が実施されている地域である。

本試掘調査は大明保育所の跡地利用として甲西児童館の建設が計画されたことにより実施したもので、平成 21 年度より協議を重ね、安全面などを考慮して保育所が閉鎖された平成 22 年度に試掘調査を実施した。西川遺跡はこれまでに本地点の隣接地で本調査が実施されているほか、本地点についても昭和 59 年の大明保育園建設に伴って試掘調査および本調査も実施されている。当時の試掘調査では敷地全体に 5 本の試掘溝が設定され、そのうち 2 本のトレンチを結ぶ形で本調査が実施され、そのほかの 3 本の試掘溝では砂礫層のみが検出され、安定した地層は検出されなかったという。本調査では明確な遺構とは言いがたいものの古墳出現期前の遺物が集中して出土している。今回の計画では前回の本調査実施範囲と重複しない部分での遺構の遺存状況に焦点をあて実施した。

今回の試掘調査では遺構が重複して検出され、遺構および遺物包含層が良好に遺存していることが確認された。検出された遺構は重複しており平面確認だけでは種別の特定は難しいものの、これまでの実績と同様に古墳出現期を中心とした遺物が出土している。

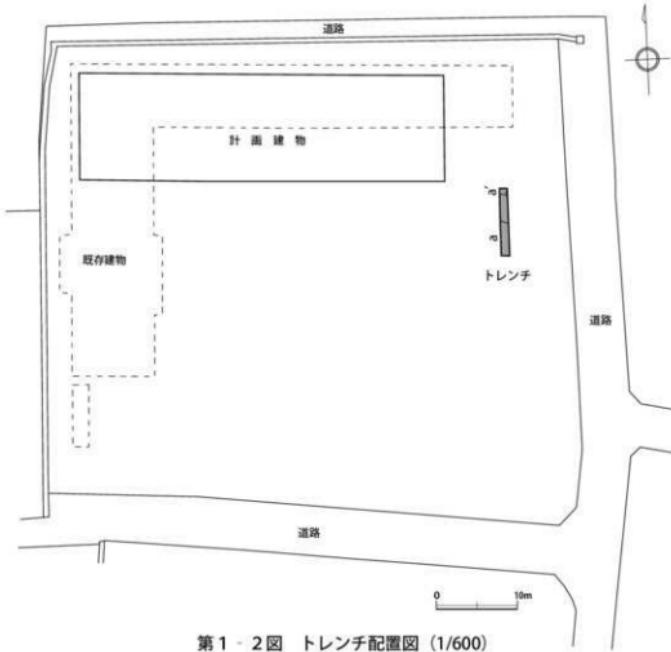
既存建物の解体前に実施する必要があったことから建物の外側で実施したため、既存建物の基礎によってどの程度影響を受けているかは不明だったが、解体時に立ち会いながら基礎解体を最低限に留め、独立基礎と地中梁とに挟まれた範囲に遺構の遺存を確認し本調査を実施している。本調査については平成 24 年度に報告書を刊行する予定で現在整理作業及び報告書の作成を進めている。



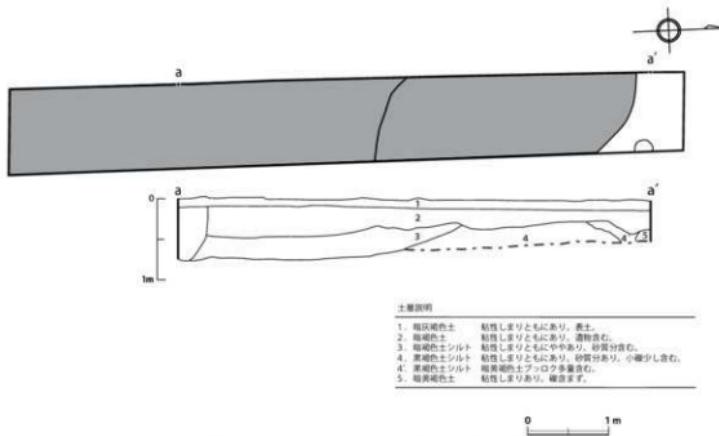
第 1-1 図 調査位置図 (1/5,000)



トレント全景（南より）



第1-2図 トレンチ配置図 (1/600)



第1-3図 トレンチ平・断面図 (1/60)

2. 百々・上八田遺跡

調査地 上八田 53-1 他

調査原因 工場誘致

調査期間 平成 22 年 7 月 21 日～8 月 4 日

対象／調査面積 58,053.95 m²／299.3 ㎡

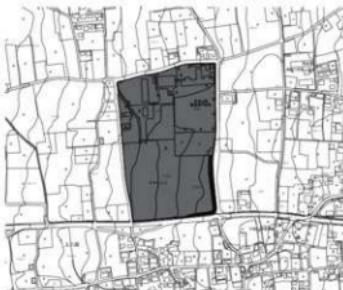
調査概要

調査地点は御動使川扇状地の扇央部に立地する。西側 300 m には中部横断自動車道の建設に伴い山梨県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われた百々遺跡があり、奈良・平安時代の竪穴住居跡が 250 軒以上検出されており、その他土坑や溝など中世まで続く集落跡が発見されている。東側 200 m には真言宗智山派の古寺、八田山長谷寺がある。寺記によれば長谷寺は天平年間の開創とされ、平安時代中頃と推測されている一本造りの十一面觀音立像を本尊としている。近世においては常襲早魃地帯であった原七郷（上八田・西野・在家塚・上今井・吉田・小笠原・桃園）の守り觀音とされ、雨乞いの祈願所でもあった。

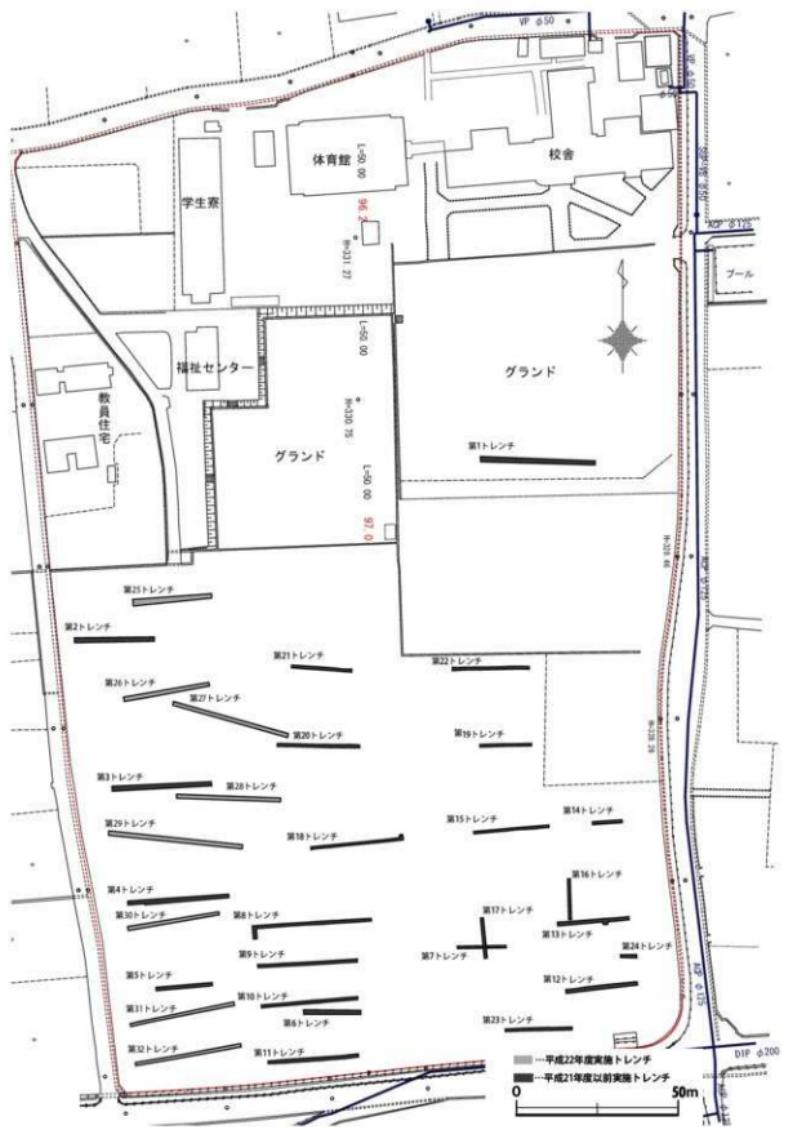
本計画は帝京山梨看護専門学校校舎の甲府駅北口移転に伴い、その跡地に平成 20 年度に計画された工場誘致に伴う遺跡の試掘調査であり、対象面積は約 58,000 m² に及ぶ。そのため試掘調査も複数年度に分けて実施している。平成 20 年度は第 1 ～ 7 トレンチを、平成 21 年度は第 8 ～ 24 トレンチを、そして平成 22 年度は第 25 ～ 32 トレンチを設定して試掘調査を実施した。

初年度に実施した試掘トレンチの隙間を埋めるように西側エリアを中心密に設定し、また遺構が比較的に集中して検出されている南側を重点的にトレンチを設定した。調査の結果、全てのトレンチから遺構が検出されたものの、これまでの傾向と同様に、竪穴建物跡と推測される遺構は調査区南側に集中し、第 30、31、32 トレンチで検出された。一方北側については全体的に遺構の密度が薄い点はこれまでの傾向と同じといえる。これまでの結果から集落の中心は調査区南側にあると推測され、北側は集落の外縁であったことがうかがえる。また前回の試掘調査で確認された 2 層の遺構は今回確認されず、西側においては 2 層目にあたる層に水成堆積の様相が認められるなど比較的安定していなかったものと考えられる。

工場誘致計画は本報告書を作成している平成 23 年度現在、まだ計画段階である。敷地全体の状況が把握できたわけではなく、詳細な遺構の分布状況を把握するためには引き続き継続した試掘調査の実施が必要と考える。



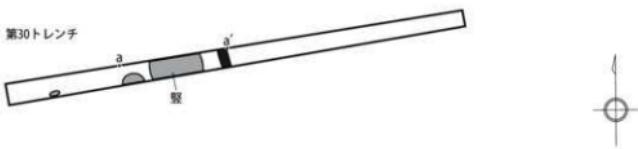
第 2-1 図 調査位置図 (1/10,000)



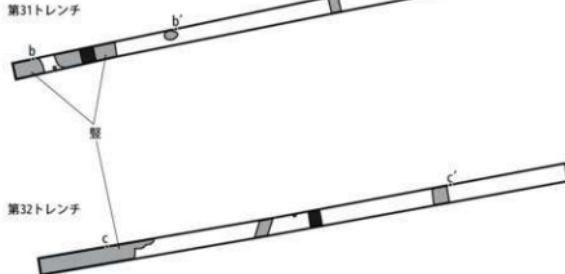
第2-2図 トレンチ配置図 (1/1,500)



第2-3図 遺構配置図 (1/1,000)



第30トレンチ



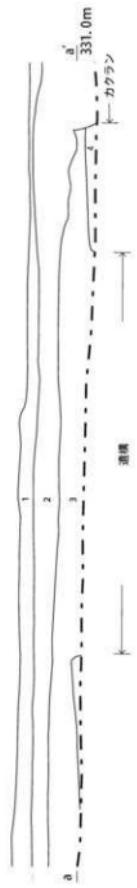
第32トレンチ

■	・・・造構
■	・・・カクラン
壁	・・・壁穴建物跡と推定される造構

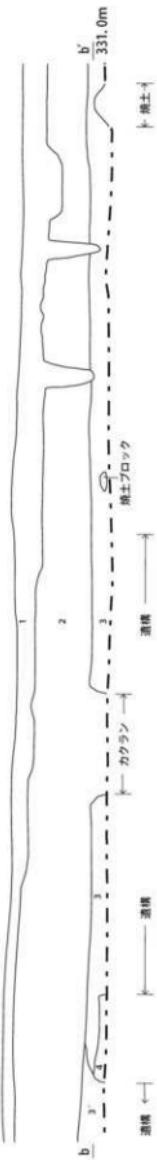
0 10m

第2 - 4図 トレンチ・遺構配置図 (1/300)

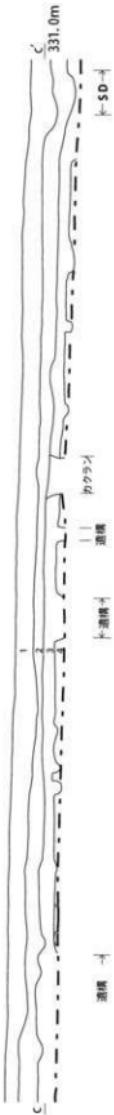
第30トレッチ



第31トレッチ



第32トレッチ



第2・5図 第30・31・32トレッチ断面図 (1/40・1/100)

1. 灰褐色砂岩
2. 黄褐色シート層
3. 黄褐色シート層
4. 黄褐色土
- カクラン
道場
カクラン
道場
カクラン
道場
カクラン
道場



第 26 トレンチ全景（西より）



第 30 トレンチ全景（西より）



第 30 トレンチ遺構検出状況（南西より）



第 31 トレンチ全景（西より）



第 32 トレンチ全景（東より）



第 32 トレンチ全景（南西より）

3. 百々・上八田遺跡

調査地 上八田 1339

調査原因 個人住宅

調査期間 平成 22 年 8 月 19 ~ 25 日

対象／調査面積 1,055.45 m² / 2.32 m²

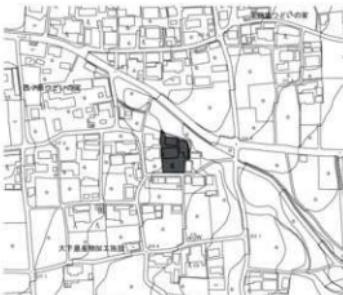
調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置し、そのすぐ北側には北西から南東へ走る小谷が見られる。この小谷は、御勅使川支流の旧流路跡と推定され、扇状地および扇状地と東側の沖積低地を区画する浸食崖を削って形成されており、扇状地と崖下の沖積低地を結ぶルートとして利用してきた。

調査地点周辺は浸食崖までの扇状地上がすべて百々・上八田遺跡となっており、東側に徳永・御崎遺跡と長盛院遺跡、北側に坂ノ上姥神遺跡が隣接しており、市内でも遺跡が濃密に分布している地点である。百々・上八田遺跡や徳永・御崎遺跡では縄文時代後期の敷石住居跡が発見されており、小谷北側に集落が展開されていたことが明らかとなっている。また調査地点から北東の百々・上八田遺跡と坂ノ上姥神遺跡では奈良から平安時代の集落が発見されている。坂ノ上姥神遺跡では中世の溝状遺構が発見され、南東には戦国時代武田氏の重臣であった金丸氏館跡である長盛院遺跡も立地していることから、古代から中世まで継続した人々の痕跡をたどることができる。

本試掘調査は個人住宅建設に伴うもので、遺構の破壊の恐れがある浄化槽設置区域について試掘・確認調査を行った。調査の結果、上層に溝状遺構、その下層にすり鉢状の竪穴状遺構を検出した。溝状遺構は幅約 50cm、深さ約 70cm を測る。土層断面図から竪穴状遺構が埋った後に構築されたものと考えられる。竪穴状遺構は深さ約 1.2m を測る。部分的な調査のため形状は不明であるが、壁の立ち上がりは比較的なだらかで、底面はほぼ平坦であるが硬化面は見られず、一般的な竪穴住居跡とは考えにくい。覆土中からはかわらけ片とすり鉢の底部が出土した。調査地点の立地および歴史環境を考えると、近世末まで井戸が作られず、近代まで御勅使川や徳島堰から通水した溜池が生活・農業用水の生命線であった。部分的な調査のため推測の域をでないが、本遺構が溜池として活用されていた可能性を指摘しておきたい。

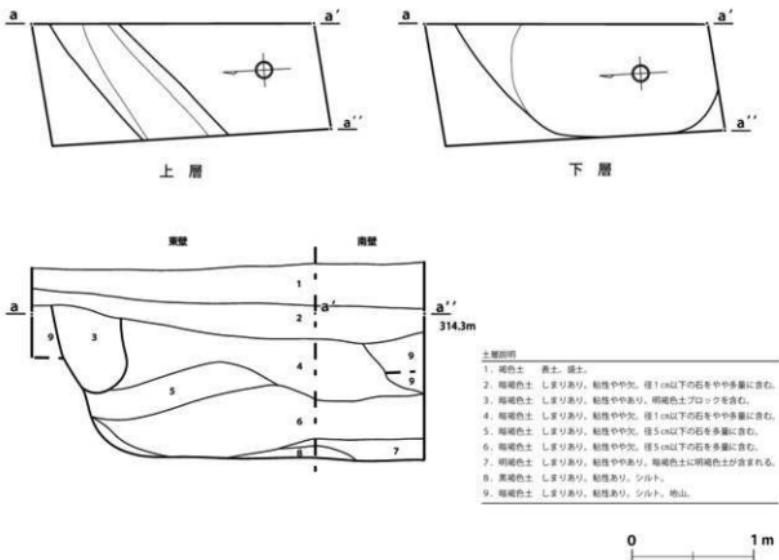
なお、住宅建設部分は山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層が確保されるため、現状保存とした。



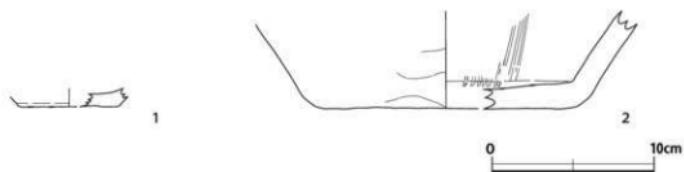
第3-1図 調査位置図 (1/5,000)



第3-2図 トレンチ配置図 (1/600)



第3-3図 第1トレーンチ平・断面図 (1/40)



第3-4図 出土遺物 (1/3)

第3-1表 土器観察表

番号	種別	直徑	法量(cm)		残存率 (%)	製作技術		粘土	吉有物	色調 外/内	焼成	注記番号	備考
			口径	壁厚		内面	外面						
1	土器	砂むらけ	-	6	-	鋸齿破片		ナデ	赤色粒子 金合母	暗	やや低	DU.下.1339	磨耗が顕著
2	土器	すり鉢	-	16	-	底部1/4		ナデ	赤、赤色粒子 金合母	暗/明黄褐	やや低	DU.上.1339	



遺構検出状況



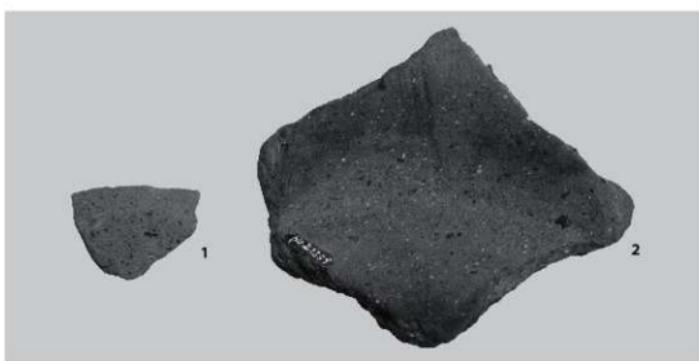
トレンチ東壁断面



遺構検出状況



調査風景



出土遺物

4. 百々・上八田遺跡

調査地 上八田 1615-1

調査原因 個人住宅

調査期間 平成 22 年 9 月 13 日

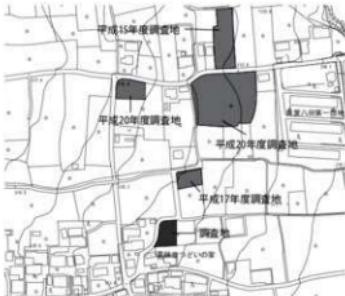
対象／調査面積 407 m² / 3.22 m²

調査概要

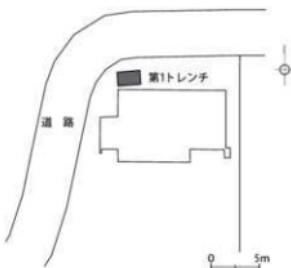
調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査地点周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が濃密に分布する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。その詳細は、本調査地点の北側に位置する本報告書 9. 坂ノ上姥神遺跡第 4 地点、百々・上八田遺跡の項で記述することとした。

本試掘調査は個人住宅建設に伴うもので、遺構の破壊の恐れがある浄化槽設置区域について試掘・確認調査を行った。調査の結果、幅約 68cm、深さ約 18cm を測るほぼ南北へ走る溝状遺構を検出した。出土遺物は土師器小片のため、時期の特定はできないが、北側に位置する坂ノ上姥神遺跡で検出された溝状遺構が平安時代および中世と推定されている点やそれらの溝の覆土と本遺構の覆土が類似していることから、平安時代から中世までの時代幅の中で構築されたものと推定される。

なお、住宅建設部分は山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層が確保されるため、現状保存とした。



第 4 - 1 図 調査位置図 (1/5,000)



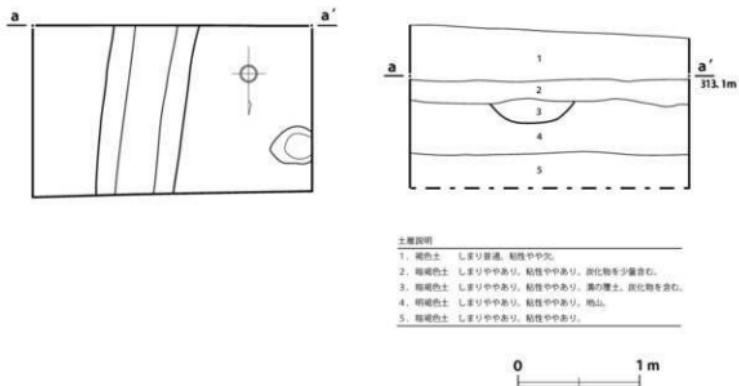
第 4 - 2 図 トレンチ配置図 (1/500)



トレンチ全景（東から）



トレンチ南壁断面



第4-3図 第1トレンチ平・断面図 (1/40)



トレンチ全景（南から）



調査風景

5. 飯野 4086、曲輪田 197 他

調査地 飯野 4086、曲輪田 197 他

調査原因 白根 2 号線

調査期間 平成 22 年 10 月 18 日～12 月 21 日

対象／調査面積 10,200 m² / 274.33 m²

調査概要

西街道小森遺跡は御勅使川扇状地上、標高約 336 m に立地し、白根地区飯野と柳形地区曲輪田との境、これまで遺跡の存在が把握されていなかつた遺跡の空白地帯に新たに発見された遺跡である。

御勅使川扇状地はこれまでの調査や研究により、

現滝沢川付近から現在の流路に至るまで、本流が移動しながら現在の扇状地上を概ね網の目状に流れ変遷していたと想定されている。

本試掘調査は市道白根 2 号線（仮）の建設計画に伴うもので、白根 2 号線は白根地区飯野を北西から南東にかけて延長約 1 km に亘って新設されるもので、そのルートはまさに御勅使川の旧流路の推定地に合致している。試掘調査は、試掘溝 27 箇所を設定し、重機を用いて掘削し、遺構確認面や同等のシルト層状面では手作業により精査した。ほぼ全ての試掘溝で砂礫層とシルト層の互層から成る流路内を示す堆積状況であったが、中央よりやや南側の第 10・11 レンチで安定したシルト層と遺構が検出された。遺構の遺存範囲を確定するためその周辺にも試掘溝を設定したところ、約 60 m の間だけ遺構と古代末期を示す遺物が検出され、事業課である道路整備課と協議を重ね、翌 23 年度に本調査を実施することで調整した。

平成 23 年、二つの旧小字名からとて「西街道小森遺跡」として名付け、新たに発見された埋蔵文化財保蔵地として周知し、7 月より事前調査を実施している。調査は 10 月に終了し、現在基礎的な整理作業を行い、平成 24 年度に本格的な整理調査を実施する予定である。

レンチごとの調査概要

第 1T～第 6T：遺構なし。GL - 2.3 m～2.7 m まで掘削したが遺構確認面相当層とみられる安定したシルト層は検出されなかった。

第 7T：遺構なし。GL - 1.8 m で遺構確認面相当層とみられる暗黄褐色シルト層が検出されるもののラミナ状の様相が観察されるなど安定はしていない。

第 8T、第 9T：遺構なし。GL - 2.4 m で暗黄褐色シルト層が検出されるもののラミナ状の様相が観察されるなど安定はしていない。0.2 m 程度の礫を多く含む。

第 10T、第 11T：GL - 0.5～1.0 m で暗黄褐色シルト層が検出され、遺構が確認された。遺構はビットと炉とみられる焼土塊、竪穴状建物とみられる覆土が検出された。遺物は出土していない。

第 12T～第 15T：遺構なし。GL - 2.2 m まで砂礫層が続く。15T では厚さ 0.4 m のシルト層を挟むが安定していない。

第 16T～第 18T：遺構なし。GL - 1.8 m で遺構確認面相当層とみられる暗黄褐色シルト層が検出され、その直上に黒褐色シルト層の堆積もみられたが安定せず遺構は検出されなかった。

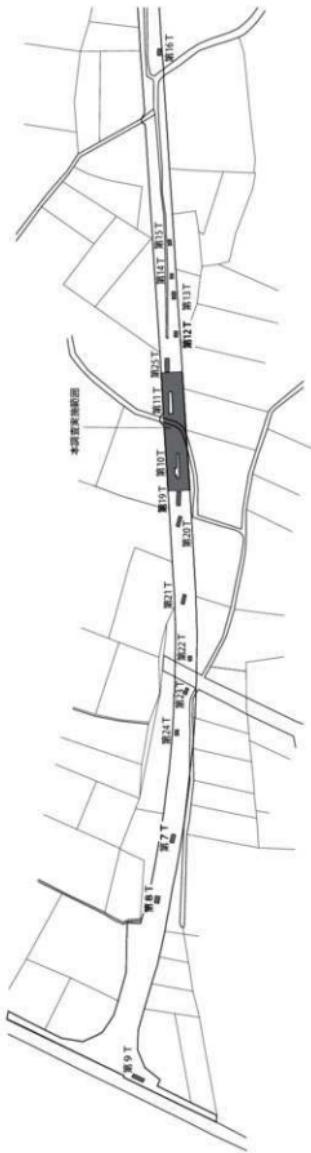
第 19T～第 21T：遺構なし。GL - 1.0～1.3 m で暗黄褐色シルト層が検出されたが明確な遺構は検出されなかった。

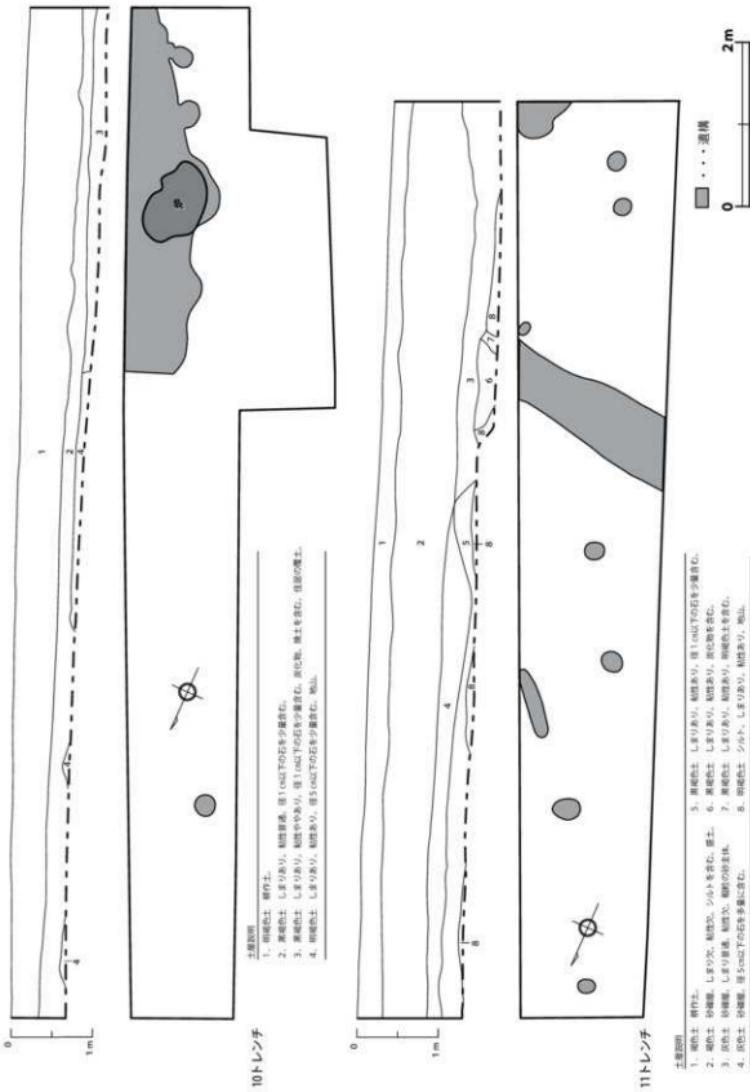


第 5-1 図 調査地位置図 (1/10,000)

第5-2図 トレンチ配置図 (1/2,500)

0 100m





第5-3図 第10・11 レンチ平・断面図 (1/60)

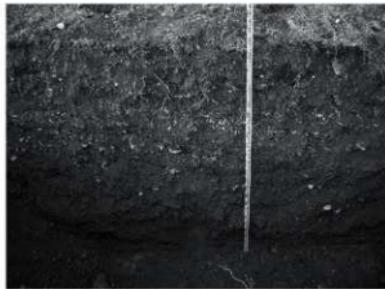
第22T～第24T：遺構なし。GL - 2.4 mまで掘削したが砂礫層を中心とした縞状の堆積が続く。

第25T 遺構なし。GL - 1.8 m～2.5 mまで掘削し、遺構確認面は検出されず、砂礫層を主体とした流路内を想定させる様相だった。

第26T～第27T：遺構なし。GL - 1.8 mまで掘削したが、砂礫層が続く。



第2 トレンチ土層断面



第9 トレンチ土層断面



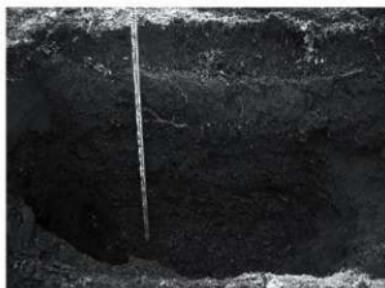
第10 トレンチ全景



第10 トレンチ遺構検出状況



第11 トレンチ調査風景



第12 トレンチ土層断面

6. 枇杷 B 遺跡

調査地 小笠原 1849

調査原因 個人住宅

調査期間 平成 22 年 10 月 19 日

対象／調査面積 509.48 m² / 2.16 a

調査概要

調査区は南アルプス市小笠原に位置し、標高約 282 m、御勅使川扇状地の扇端部付近に立地する。すぐ西には滝沢川扇状地があり二つの扇状地が複合的に重複する地点といえる。

調査区周辺には枇杷 B 遺跡のほかに溝呂木第 5 遺跡などがあり、ともに主要地方道菲崎・櫛形・豊富線（現菲崎・

南アルプス・中央線）の建設工事に伴って本調査が実施され、本試掘調査地点は複数実施されている調査実施地点の西約 60 m の位置にあたる。

本試掘調査は個人住宅建設に伴い、以上のような周辺での調査事例を鑑みて掘削深度の深い浄化槽設置箇所において実施した。試掘調査は重機を用いて掘削したが遺構覆土とみられる土が検出されてからは手作業において精査しながら掘削を進めた。

試掘溝は 0.9 × 2.4 m という狹小な範囲ではあったが、地表面から約 0.8 m の深度で覆土とみられる炭化物粒の混入した土が検出され、一部に遺構確認面とみられる暗黄褐色シルトが検出された。竪穴建物跡とみられる遺構の中に試掘溝がすっぽりと収まった位置関係といえる。

検出された遺構と遺物

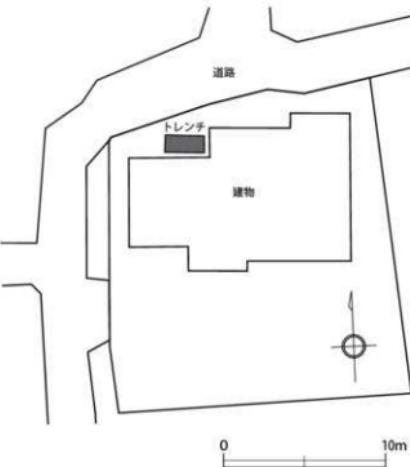
遺構は竪穴建物跡とみられるが、炉・カマドとともに検出されず、プランおよび構造は判明しない。床面には一部に貼床が検出されている。

出土遺物は非常に少なく、3 層より下層で古墳出現期と古代との 2 時期の土器破片が検出された。床面直上からも土師器片 2 点が出土したが上層の土器片含めてもいずれも 1 cm にも満たない碎片で、図示し得たものは一点のみである。

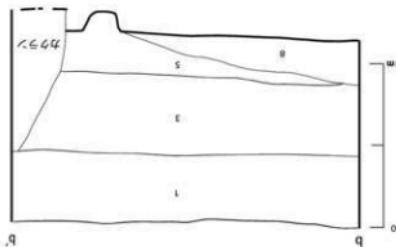
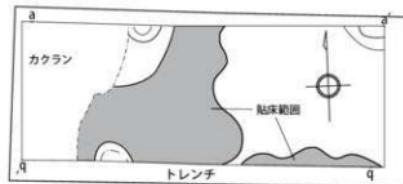
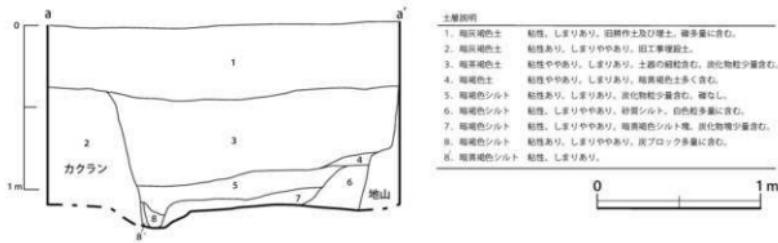
土器片は壺の底部破片でわずかに底部外縁部が遺存する。回転糸切りの後に周辺部にヘラ削りが施されたものとみられる。細片ではあるが古代中頃を示すものとみられ、周辺で検出されている建物の時期と合致している。



第 6-1 図 調査位置図 (1/5,000)



第 6-2 図 トレンチ配置図 (1/300)



第6-3図 トレンチ平・断面図 (1/30)



トレンチ全景



トレンチ全景 (南より)



トレンチ北壁土層断面

7. 赤面 A 遺跡、赤面 B 遺跡

調査地 沢登 773-1 他

調査原因 白根櫛形線

調査期間 平成 22 年 10 月 20 日～12 月 3 日

対象／調査面積 4,080.00 m² / 77.61 m²

調査概要

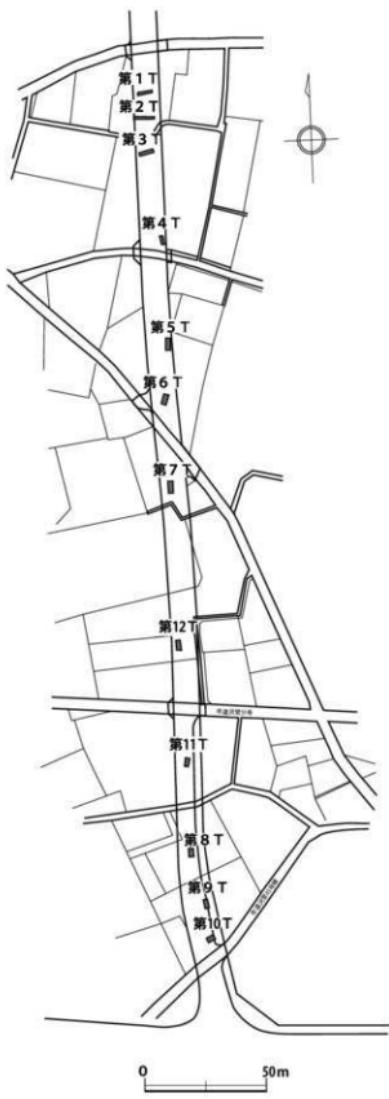
調査地点は御勅使川扇状地の扇尖部から扇端部に位置する。扇尖部から扇端部にかけて立地する遺跡には、調査地点南東約 1.1km の地点に十五所遺跡が立地し、弥生時代後期の住居址と方形周溝墓が検出されている。十五所遺跡の南には村前東 A 遺跡が位置し、古墳時代前期の住居址が 141 軒、9 世紀から 10 世紀を中心とする平安時代の住居址が 61 軒検出され、それぞれの時代で拠点的な集落が展開していることが明らかにされた。調査地点から東へ 500 m の地点には七ツ打 C 遺跡が立地し、近世の溝や粘土採掘坑が発見されている。

調査の結果、南北に約 400 m 続く道路に設定した 12 箇所のトレンチの中で、第 8・9・10 トレンチで遺構を検出し、扇状地扇端部寄りの南側に遺構が存在していることが明らかとなった。第 8 トレンチでは地表から約 1.5 m の地点で複数の土坑を検出した。サブトレンチで確認した範囲では、深さ 8 ~ 14cm を測る。覆土は第 4 層の明褐色土シルトが落ち込むものと、暗褐色土シルトの土坑がある。第 9 トレンチでは地表から約 1.6 m の地点で南北方向に走る幅 20 ~ 33cm を測る畝状の溝を発見した。サブトレンチで溝の断面を確認したところ、深さは約 15cm を測り、覆土は暗褐色土シルトであった。第 10 トレンチでは地表から約 1.5 m の地点で溝状遺構を検出した。幅約 88cm、深さ約 30cm を測る。3 層の明褐色土が覆土であり、比較的新しい遺構の可能性がある。

本試掘・確認調査によって、畝状の遺構や土坑が検出されたものの、時期が特定できず範囲も限定されている。また遺構確認面も地表から約 1.5m と深いことから、試掘・確認調査によって遺構を記録し保存する方針とした。



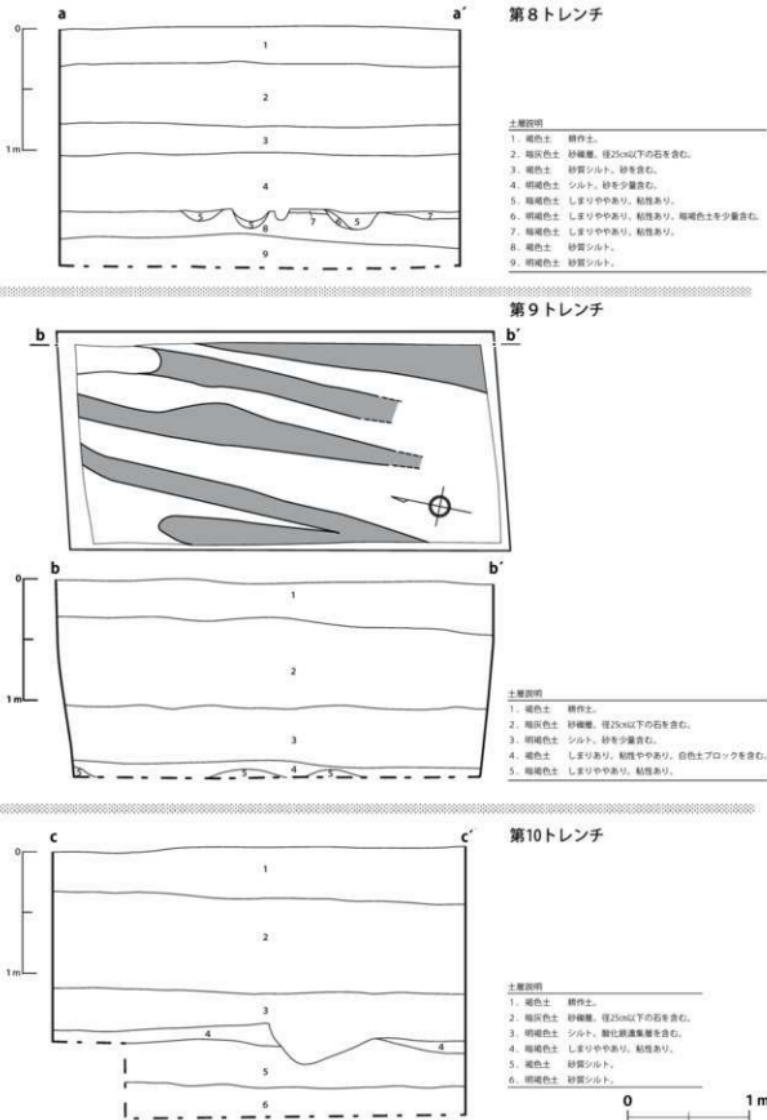
第 7-1 図 調査地位置図 (1/10,000)



0 20 m
1/1,000

凡例
T ····· トレンチ

第7-2図 トレンチ全体図 (1/2,000) および第8~11 トレンチ (1/1,000)



第7・3図 第8・9・10トレンチ平・断面図 (1/40)



第8 トレンチ断面（西から）



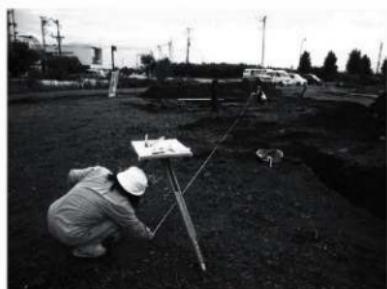
第9 トレンチ遺構検出状況（南から）



第9 トレンチ全景（南から）



第10 トレンチ全景（南西から）



調査風景



調査風景

8. 宮沢 152

調査地 宮沢 152

調査原因 福祉施設

調査期間 平成 22 年 11 月 18・19 日、12 月 7~9 日

対象／調査面積 1,158.00 m² / 41.65 m²

調査概要

本試掘調査地点は南アルプス市の南部、甲西地区に位置し、標高 243 m の釜無川氾濫源に立地する。当該地域はかねてより「田方」と呼ばれる水田地帯であるが、甲府盆地を流れる各河川が集まる地域でもあり、信玄堤の築堤以降釜無川の流路変遷の中で、洪水常襲地帯となる地域である。

そのため、中世以降当該地域に存在した旧村落は、水害等の度に集落ごとの移転を余儀なくされている。本試掘調査地点の北西にもかつては宮沢集落が営まれていたが、明治 33 年から 42 年にかけて全村 42 戸がさらに北側の清水地区へと移転している。調査地点の北西 100 m には宮沢中村遺跡があり、甲西道路建設に伴って発掘調査が行われ、移転前の旧宮沢村の様子を伺い知る成果を得ている。

本試掘調査は福祉施設の建設が計画されたことにより実施したものである。まず 11 月 18・19 日に試掘調査を実施し、2 箇所の試掘溝を設定し調査を実施したところ、第 1 トレンチで木製品が出土した。遺構は確認されず木製品の出土状況はいわゆる「流れ込み」あるいは淀みに溜まった状態といえる。事業者と協議を重ね、今回の建設計画では独立基礎を予定していたため敷地の多くは掘削されずに保存されることから、基礎を設置する位置で 12 月 7~9 日に改めて試掘調査を実施した。再試掘調査では第 6 トレンチで遺物の集中がみられたが、他のトレンチでは検出されなかった。

検出された遺物

煙管の雁首 1 点の他には木製品もしくは木片等が出土し、その中で図示し得たのは 13 点のみである。いずれも磨耗が激しいが、出土量が少ない割には、下駄や錐をはじめ種類は豊富といえる。

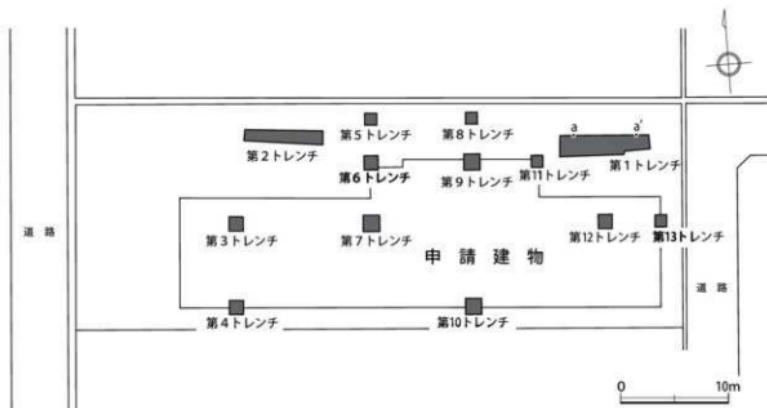
当該地域は周辺河川の自然堤防に囲まれているため、一端水が溢れれば排水できない地域といえる。今回の調査地点は旧集落域から外れているものの、そのような理由からか旧宮沢村の生活道具とみられる木製品が含まれていた。今後このような事例の取り扱いについて検討する余地があると考えている。

第 8 - 1 表 出土遺物観察表

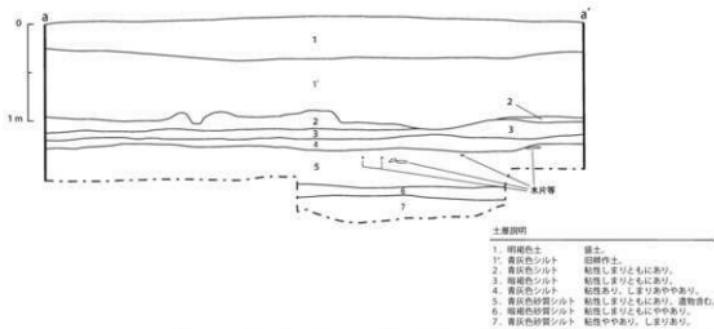
図 No	No	出土トレンチ	種別	法量 (cm)			木取り	樹種・備考
				長さ	幅	厚		
8 - 6	1	1	連齒下駄	13.6	5.4	3.5	台表が板目	ヒノキ科
8 - 6	2	1	差齒下駄(露卯)の歯	8.5	7.2	1.4	板目	トネリコ属シオジ節
8 - 6	3	1	部材	10.8	3.5	1.7	分割材	クリ
8 - 6	4	1	板材	15.8	6.5	0.6	板目	モミ属
8 - 6	5	1	板材	8	5.7	0.8	板目	モミ属
8 - 6	6	1	棒状	16.4	1.1	0.5	削出棒状	アスナロ
8 - 6	7	1	板材	25.6	4.9	1.3	板目	アスナロ
8 - 7	1	6	煙管雁首					火皿径 1.9 cm、接合部径 1.0 cm
8 - 7	2	6		17.4	1.6	1.5	削出丸棒	スギ
8 - 7	3	6	角棒状	21.2	1.4	0.7	板目	モミ属
8 - 7	4	6	板状	12.4	4.8	0.8	板目	スギ
8 - 7	5	6	板状	19.4	4.8	0.9	板目	スギ
8 - 7	6	6	板状	29.9	6	1.3	板目	スギ
8 - 7	7	6	板状	36	8.8	2.6	造柵	カラマツ



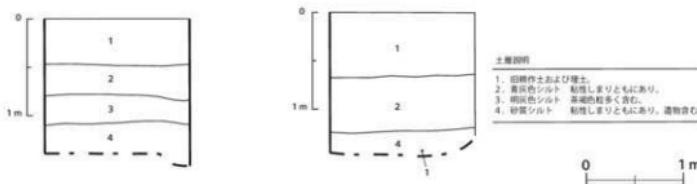
第 8 - 1 図 調査地位位置図 (1/5,000)



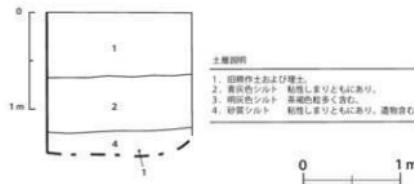
第8-2図 トレンチ配置図 (1/450)



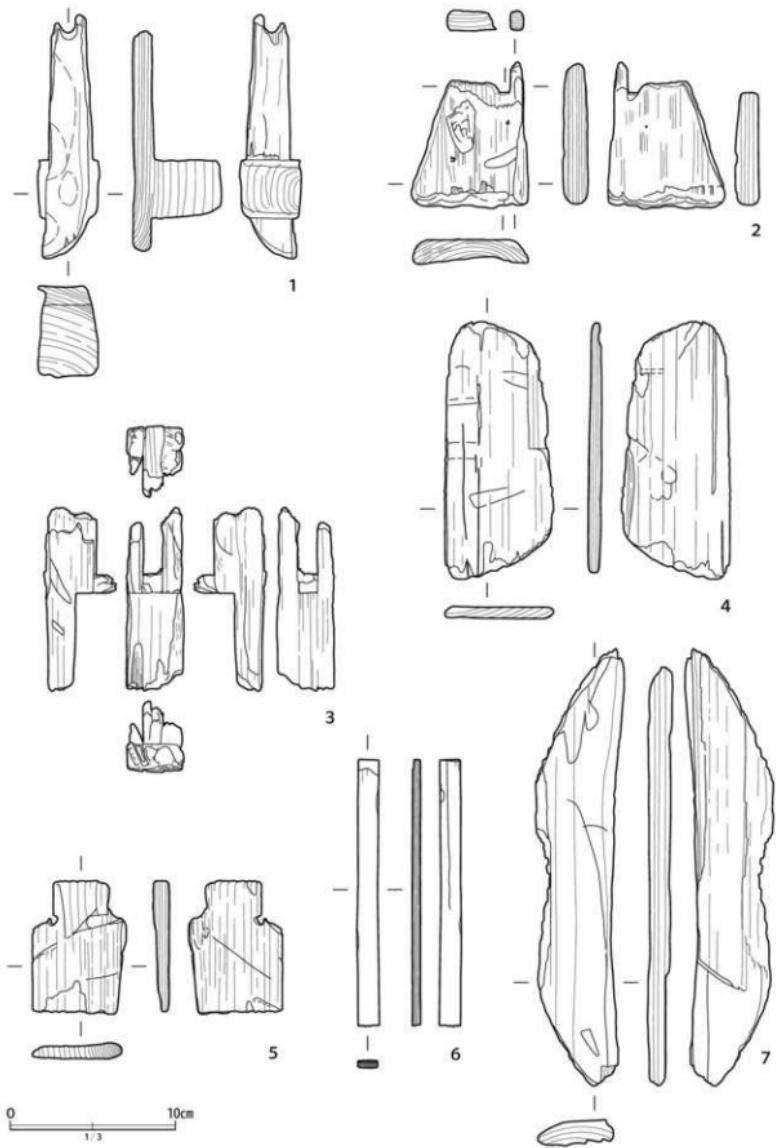
第8-3図 第1トレンチ断面図 (1/50)



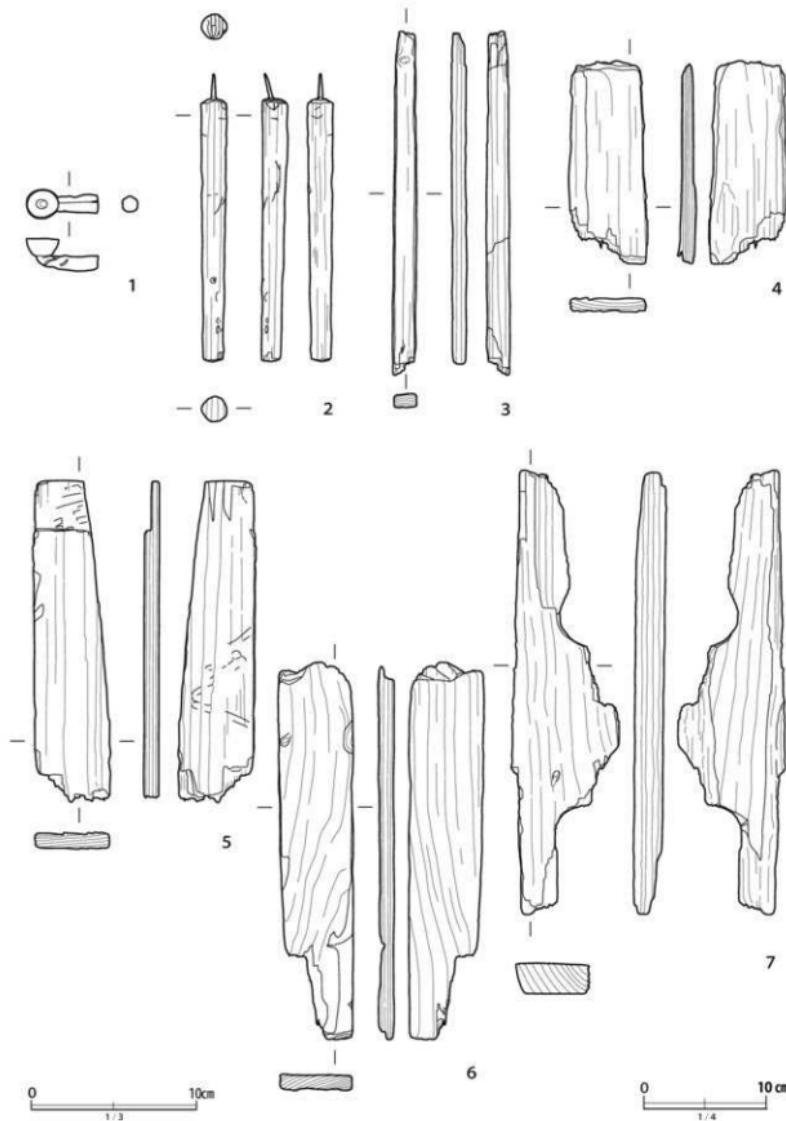
第8-4図 第4トレンチ東壁断面図 (1/50)



第8-5図 第6トレンチ北壁断面図 (1/50)



第8 - 6図 第1トレンチ出土遺物 (1/3)



第8・7図 第6トレンチ出土遺物 (1/3:1~5、1/4:6・7)



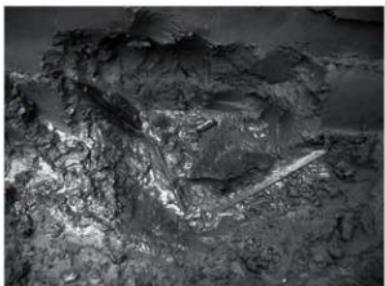
第1トレンチ全景



第1トレンチ遺物出土状況



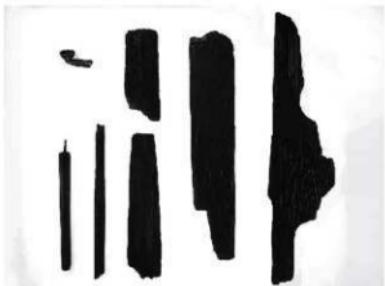
第6トレンチ全景



第6トレンチ遺物出土状況

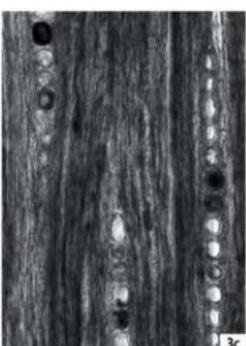
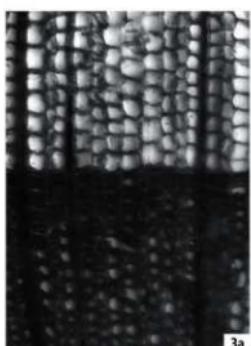
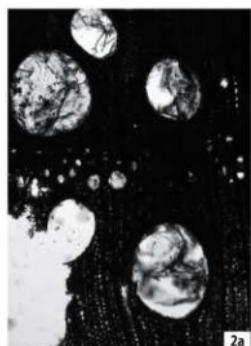
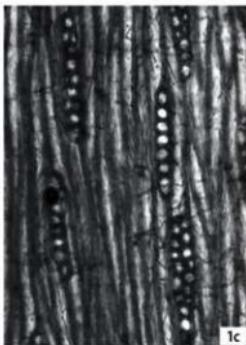
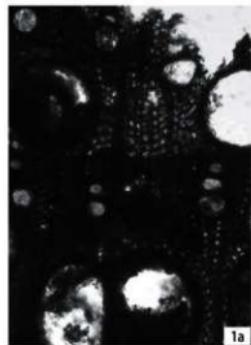


第1トレンチ出土遺物



第6トレンチ出土遺物

樹種同定写真図版(1)



1. T 1-2 トリネコ属シオジ節

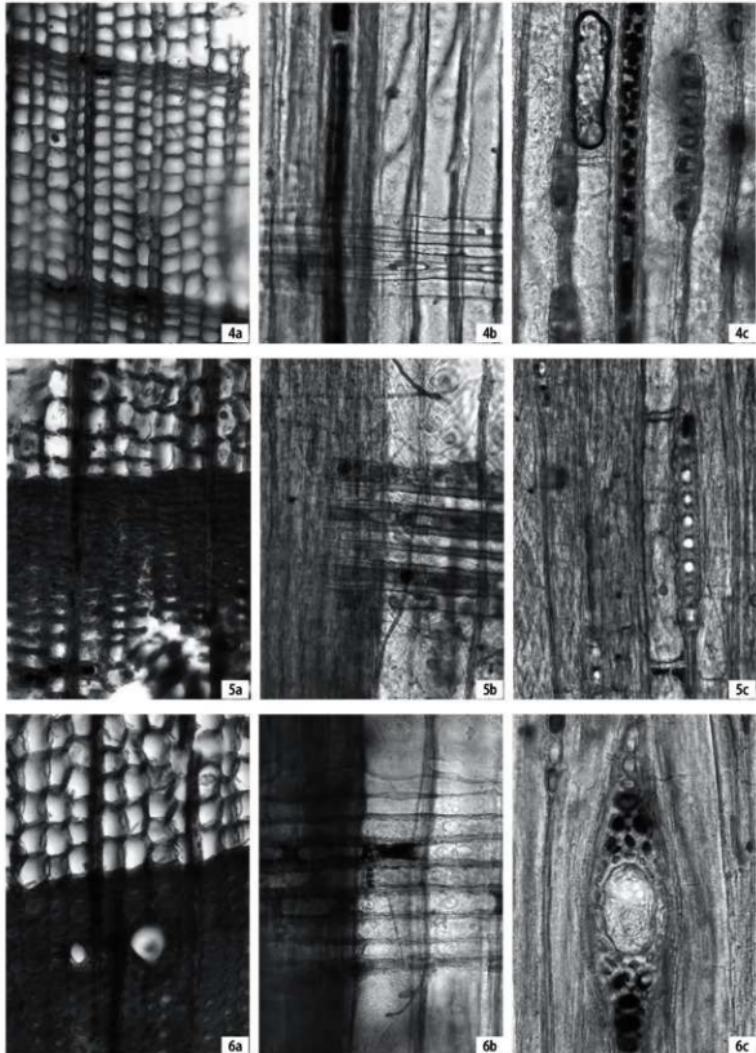
2. T 1-3 クリ

3. T 1-5 モミ属

a : 木口, b : 柄目, c : 板目

100 μm:a
100 μm:b, c

樹種同定写真図版(2)



4. T 1-6 アスナロ

5. T 6-6 スギ

6. T 6-7 カラマツ

a : 木口, b : 柄目, c : 板目

300 μm :5-6a
200 μm :4a, 5-6b, c
100 μm :4c

9. 坂ノ上姥神遺跡第4地点、百々・上八田遺跡

調査地 徳永 1715 他、上八田 1619-1 他

調査原因 私立小学校グランド

調査期間 平成 23 年 2 月 23 ~ 25 日

対象／調査面積 1,844.00 m² / 132.88 m²

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が集中する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。調査区の北側は宅地分譲工事に伴い、平成 15 年度に道路部分の発掘調査が行われ、奈良～平安時代初頭の集落跡が発見されている。一方南側では、平成 17 年度に個人住宅の浄化槽と浸透樹の設置に伴う調査が行われ、10 世紀前半の遺物を伴う堅穴住居址が検出された。調査区の南東には武田家の家臣であった金丸氏館跡（現在は曹洞宗寺院長盛院）が位置し、長盛院本堂の建替工事に伴う試掘調査により、時期は不明ながら基壇状の遺構が発見されている。さらに南側には徳永・御崎遺跡が広がり、集合住宅や個人住宅建設に伴う調査の結果から、古代の堅穴住居址や古墳時代後期の堅穴住居址、さらに下層から绳文時代後期の敷石住居址が検出されている。

本試掘調査は、私立小学校グランド建設工事に伴うものである。平成 23 年 2 月 23 日に調査に着手し、当時耕作中の果樹および畠かんを回避できる場所に任意寸法のトレーンチを 11 箇所設定して調査を行い、同月 25 日に埋め戻しを行い調査を完了した。

坂ノ上姥神遺跡では複数年度にわたり試掘・確認調査および発掘調査が行われてきた。そのため、調査地点名および調査原因、調査結果をここで確認しておきたい。

坂ノ上姥神遺跡：平成 15 年度宅地分譲に伴い試掘・確認調査（第 1、2 トレーンチ）実施後、平成 15 年道路部分の発掘調査を実施した。

坂ノ上姥神遺跡第2地点：平成 20 年度南アルプス子どもの村小学校建設に伴い試掘・確認調査（第 1 ~ 7 トレーンチ）を実施し、平成 21 年度小学校西側の道路拡幅に伴い発掘調査を実施した。

坂ノ上姥神遺跡第3地点：平成 20 年度個人住宅に伴う浄化槽部分の発掘調査を実施した。

坂ノ上姥神遺跡第4地点：平成 22 年度南アルプス子どもの村中学校建設に伴う試掘・確認調査（第 1 ~ 11 トレーンチ）を実施した。その中で南側の第 6 ~ 11 トレーンチは百々・上八田遺跡に該当する。平成 23 年度も上記の中学校建設に伴い継続して試掘・確認調査を実施する予定である。

発見された遺構と遺物

第1トレーンチ

地表から約 50cm の地点から溝状遺構を 1 条検出した。遺構確認面で幅約 1.9 m を測る。位置関係から、坂ノ上姥神遺跡第2地点の発掘調査で検出された 3 号溝状遺構とみて間違いない。

第2・3・7・11 トレーンチ

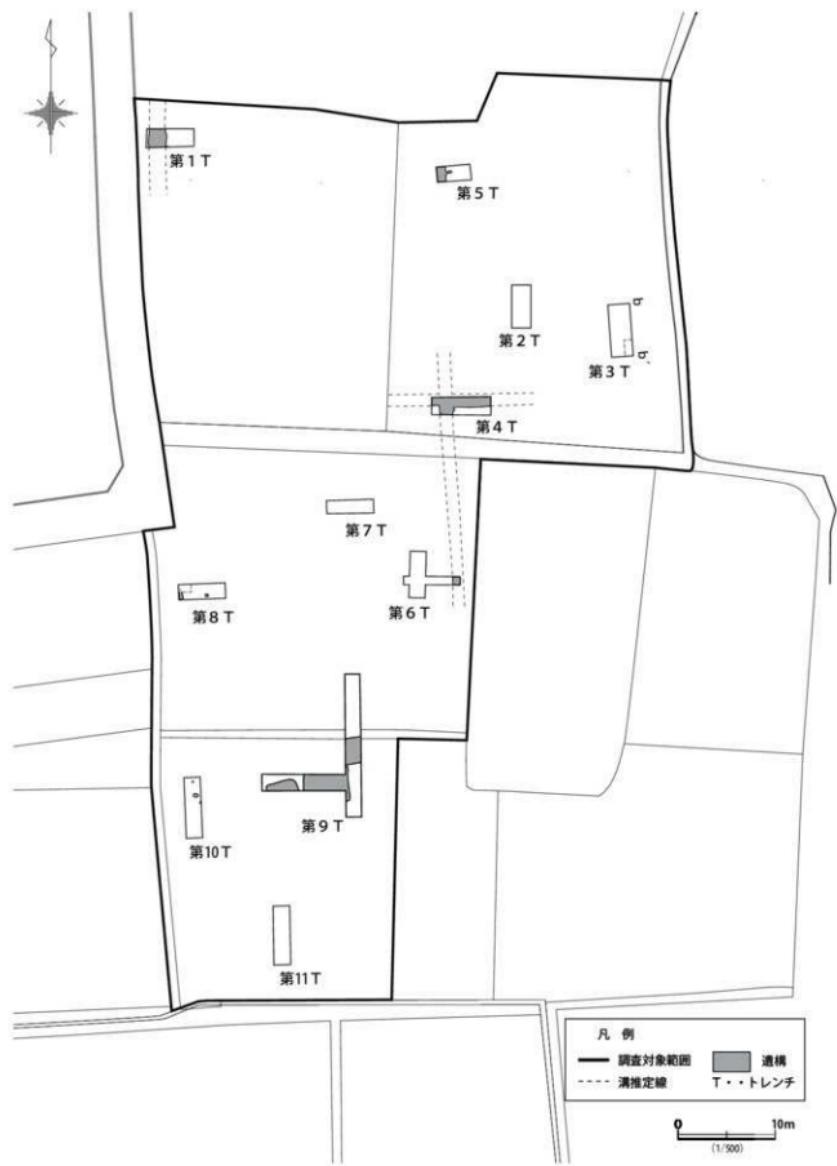
遺構、遺物は発見されなかった。

第4トレーンチ

地表から約 45cm の地点から東西に走る溝状遺構を 1 条、南北に走る溝状遺構を 1 条、土坑を 1 基検出した。溝状遺構は遺構確認面では覆土に違いが認められなかったため、同時期に機能していた可能



第9-1図 調査地位置図 (1/5,000)



第9-2図 トレンチ配置図 (1/500)

性がある。

第5トレンチ

地表から約40cmの地点から竪穴住居址を1軒検出した。東側に焼土を覆土とする土坑を伴うカマドが設けられている。

第6トレンチ

地表から約40cmの地点から南北に走る溝状遺構を1条検出した。溝の位置と方向から、第4トレンチで検出した南北に走る溝と同一遺構である可能性が高い。

第8トレンチ

地表から約40cmの地点から土坑を2基検出した。西端の土坑は大部分が調査区外に続いており、他の遺構である可能性がある。

第9トレンチ

地表から約35cmの地点から竪穴住居址を3軒検出した。図面および出土遺物の整理上、東の遺構を1号住居址、中央を2号住居址、西を3号住居址とした。3軒すべて調査区外へ続いているため正確な形状は不明であるが、1号住居址が1辺約2.7m、2号住居址が1辺約4.6m、3号住居址が1辺約3.1mを測る。他と比べ2号住居址が大きく、覆土中には長径18～35cmを測る複数の石が住居東側で出土した。1号住居址の東壁にはカマドが検出された。

出土遺物では、1号住居址から須恵器の高台坏（1）が発見されており、県史編年IV期、宮ノ前編年IV～V期、8世紀末～9世紀前半と推測される。2号住居址からは甕（2）が出土した。

第10トレンチ

地表から約35cmの地点から土坑を3基検出した。

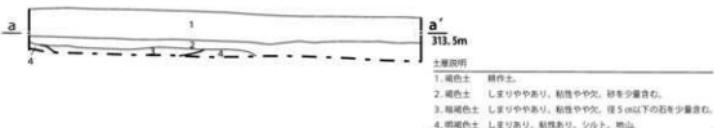
総括

本試掘・確認調査の結果、平安時代から中世を主体とした遺構が調査対象区域全域に分布していることが明らかとなった。中でも、幅が2mを測る東西と南北に伸びる溝状遺構が検出され、溝によって土地が区画されていたことが調査地点でも明らかとなった点は、周辺の土地利用を考える上でも重要な知見となった。

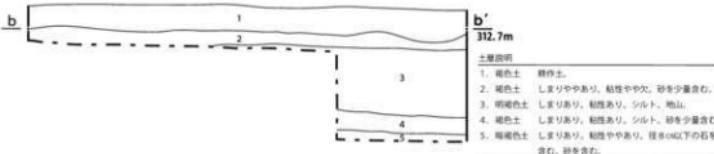
試掘・確認調査にあたっては、第2・3・8・11トレンチの一画にサブトレンチを設定し、平安時代から中世の遺構の地山となっている明褐色土シルト層まで掘り下げたが、縄文時代後期の遺構は検出できなかった。これによって、縄文時代後期集落の分布が南側の小谷付近に改めて限定できたことになる。小規模な試掘・確認調査ではあるが、これまでの調査データと重ね検証することで、新たな歴史の一端を明らかにできる貴重な調査成果が得られた。

なお、教育委員会と工事主体者との協議の結果、グランドは盛土を主体とし、山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層を確保し遺構を現地保存することで合意した。

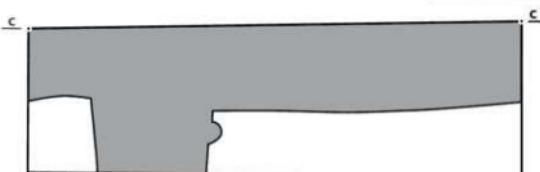
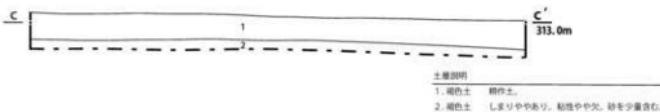
第1トレンチ



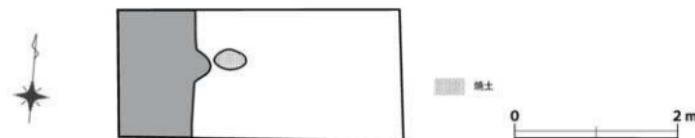
第3トレンチ



第4トレンチ

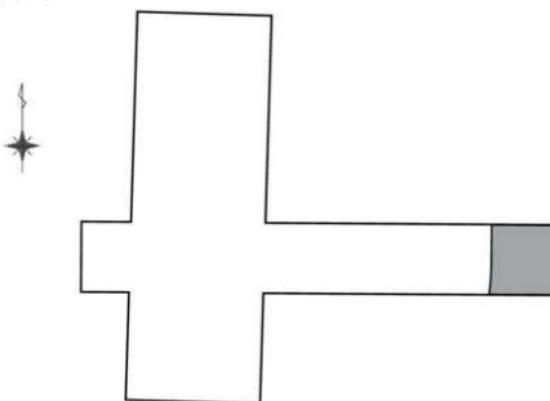


第5トレンチ

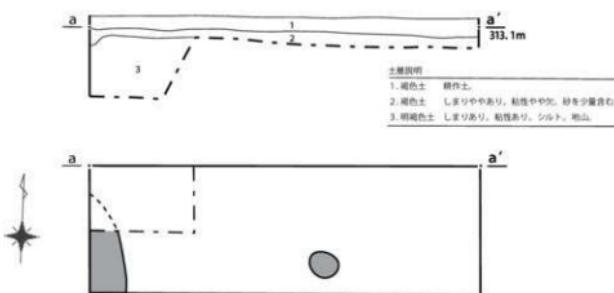


第9・3図 第1・3・4・5トレンチ平・断面図 (1/60)

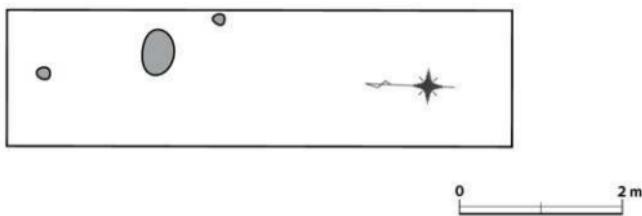
第6 トレンチ



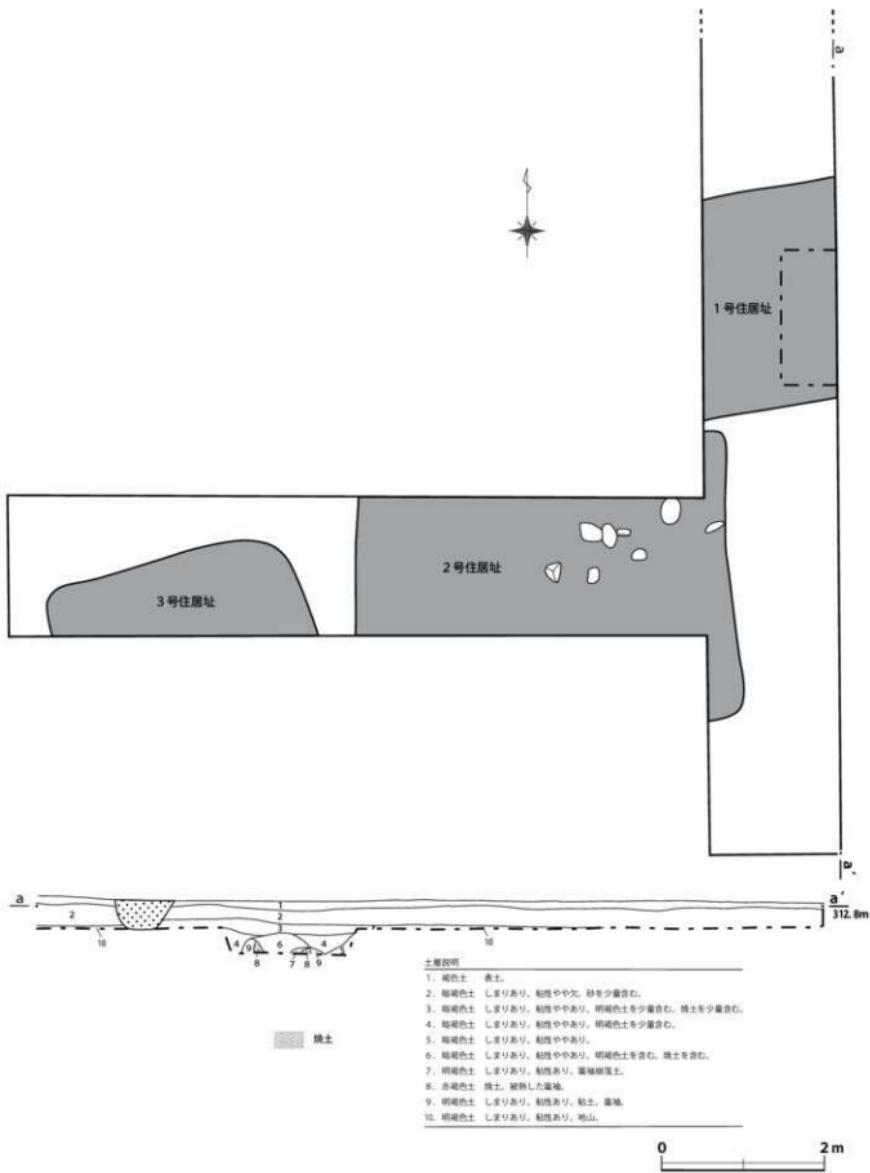
第8 トレンチ



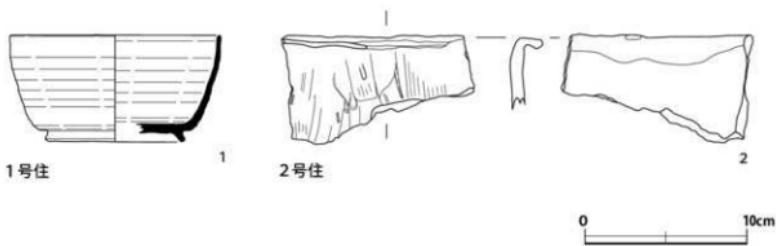
第10 トレンチ



第9・4図 第6・8・10 トレンチ平・断面図 (1/60)



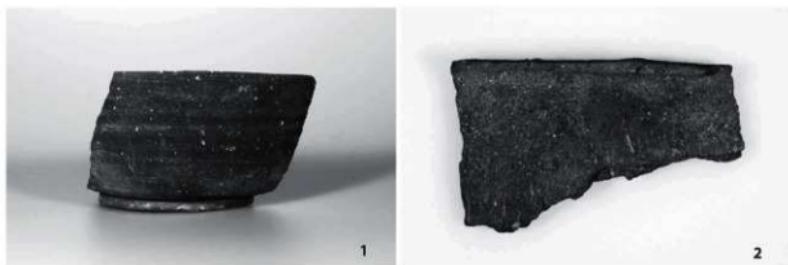
第9-5図 第9トレーンチ平・断面図 (1/60)



第9-6図 第9トレンチ出土遺物 (1/3)

第9-1表 土器観察表

トレンチ 造機	番号	種別	面種	法量(cm)			残存率 (%)	製作技法		胎土	含有机物	色調 外/内	焼成	注記番号	備考							
				口徑	底径	高さ		内面	外面													
9T 1住	1	漆器器	环	12.8	8.6	6.5	40	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子	暗灰/灰	粗	SU49T1住.1	反転測定							
9T 2住	2	土器器	壁	—	—	—	—	口縁破片	ヨコナデ	タテハケ	やや粗	金青緑・砂	明黄橙/橙	やや粗	SU49T2住.2							



1号住出土遺物

2号住出土遺物



第1トレンチ全景（東から）



第1トレンチ遺構検出状況（西から）



第2トレンチ全景（北西から）



第2トレンチ断面



第3トレンチ全景（北から）



第3トレンチ断面



第4 レンチ全景（西から）



第4 レンチ遺構検出状況（東から）



第5 レンチ全景（西から）



第5 レンチ遺構検出状況（南から）



第5 レンチ調査風景（南西から）



第6 レンチ遺構検出状況



第7 テレンチ遺構検出状況（西から）



第8 テレンチ全景（東から）



第8 テレンチ遺構検出状況（西から）



第9 テレンチ全景（南から）



第9 テレンチ遺構検出状況（西から）



第9 テレンチ遺構検出状況（東から）



第9 レンチ遺構検出状況（西から）



第9 レンチ遺構検出状況（東から）



第9 レンチ住居址断面（西から）



第9 レンチ調査風景（南から）



第10 レンチ遺構検出状況（北から）



第11 レンチ断面

報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせい 22ねんどいしうぶんかざいしつちようさほうくしょ
書名	平成 22 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
シリーズ名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 29 集
編著者名	斎藤秀樹、保阪太一
編著機関	南アルプス市教育委員会
所在地	〒 400-0492 山梨県南アルプス市鮎沢 1212 TEL055-282-7269
発行年月日	2012 年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	標高 (m)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)	(世界測地系)				
西川遺跡	清水 24、26 他	19208	KS-39	35° 35' 22"	138° 28' 18"	250	2010 年 5 月 26 日	8.8	甲西兒童館
百々・上八田遺跡	上八田 53-1 他	19208	SN-3	35° 39' 27"	138° 28' 40"	331	2010 年 7 月 21 日～8 月 4 日	299.3	工場建設
百々・上八田遺跡	上八田 1339	19208	SN-3	35° 39' 4"	138° 28' 39"	314	2010 年 8 月 19 ～ 25 日	2.32	個人住宅
百々・上八田遺跡	上八田 1615-1	19208	SN-3	35° 36' 56"	138° 29' 9"	313	2010 年 9 月 13 日	3.22	個人住宅
瓶野 4086、 曲輪田 197 他	瓶野 4086、 曲輪田 197 他	19208	なし	35° 37' 55"	138° 27' 31"	336	2010 年 10 月 18 日～ 12 月 21 日	274.33	白根 2 号線
枇杷 B 遺跡	小笠原 1849	19208	KG-243	35° 36' 42"	138° 27' 26"	282	2010 年 10 月 19 日	2.16	個人住宅
赤面 A 遺跡、赤面 B 遺跡	沢登 773-1 他	19208	KG-11 KG-12	35° 37' 32"	138° 28' 9"	311	2010 年 10 月 20 日～ 12 月 3 日	77.61	白根樹形線
宮沢 152	宮沢 152	19208	なし	35° 34' 57"	138° 28' 35"	243	2010 年 11 月 18～19 日、 12 月 7～9 日	41.65	福祉施設
坂ノ上 妻神道跡 第 4 地点、百々・ 上八田遺跡	坂家 1715 他、上 八田 1619-1 他	19208	HT-40 SN-3	35° 39' 14"	138° 29' 12"	313	2011 年 2 月 23 ～ 25 日	132.88	私立小学校 グランド

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西川遺跡	散布地	弥生後期、古墳中期、 中世	竪穴状遺構、土坑	弥生～古式土師器	
百々・上八田遺跡	散布地	奈良～中世	住居址、溝状遺構、 土坑	土師器	
百々・上八田遺跡	散布地	奈良～中世	竪穴状遺構、溝状遺 構	埴輪	
百々・上八田遺跡	散布地	奈良～中世	溝状遺構、土坑	土師器	
瓶野 4086、曲輪田 197 他	散布地		住居址、溝状遺構、 土坑	土師器	扇状地における生産の場を新たに 検出。
枇杷 B 遺跡	散布地	古墳前期～後期、平安 時代	住居址	なし	
赤面 A 遺跡、赤面 B 遺跡	散布地	中世～近代	竪穴状遺構、土坑	土師器	
宮沢 152	散布地	近世	なし	木製品	
坂ノ上 妻神道跡第 4 地 点、百々・上八田遺跡	散布地	奈良～中世	住居址、溝状遺構、 土坑	土師器	御動使川扇状地扇端部に展開する 古代～中世の集落跡が検出された。

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第29集
山梨県南アルプス市

平成22年度埋蔵文化財試掘調査報告書

発行日 2012年3月30日

発行者 南アルプス市教育委員会
〒400-0492

山梨県南アルプス市鮎沢1212

TEL 055-282-7269

印刷所 株式会社サンニチ印刷
〒400-0058

山梨県甲府市宮原町608-1

TEL 055-241-1111

FAX 055-241-1220

